

(院外心停止患者に対する病院前救護の効果) に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 27 年 6 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

院外心停止患者に対する病院前救護体制の評価および予後関連因子に関する研究

〔研究目的〕

医療機関外の場所における心停止(院外心停止)は、全国で毎年 10 万件以上発生していますが、その生存率や社会復帰率は非常に低い(数パーセント程度)ことが知られています。生存率の改善を目指して、これまでに、一般市民を対象とした心肺蘇生講習や、救急救命士による気管内挿管、薬剤投与の導入や自動体外式除細動器(AED)の普及などが実施されてきました。本研究ではこれらの病院前救護活動の実施状況と効果について評価を行います。

〔研究意義〕

院外心停止患者に対する市民や救急救命士による病院前救護の効果の評価することにより、院外心停止患者の予後の改善に向けた効果的な病院前救護体制に関する科学的根拠を提示することができます。

〔対象・研究方法〕

総務省消防庁は、これらの病院前救護活動の効果を検証する目的で、2005 年以降、全国で救急搬送されたすべての院外心停止患者のデータを登録しています。本研究ではこのデータを利用して分析を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部救急医学講座、東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野、筑波大学医学医療系社会医学分野、虎の門病院救急科、横浜市立大学医学部救急医学教室、福島県立医科大学が共同して分析を行います。

〔個人情報の取り扱い〕

本研究において使用するデータは、総務省消防庁において氏名、生年月日、住所などの個人を特定できる情報は削除されていますので、個人が特定されることはありません(特定の個人を分析から除外することもできません)。データ利用は、研究責任者が総務省消防庁の許可を得た上でを行い、データの管理および解析は帝京大学においては、研究代表者が責任を持って行います。研究期間終了後は、データ利用の規定に従いデータを廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：坂本哲也（帝京大学医学部救急医学講座）

研究分担者：中原慎二（帝京大学医学部救急医学講座）

TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 7569]